



学校法人永原学園
さんこう児童クラブ通信
令和8年10月発行
— 第7号 —
【三光幼稚園】
TEL:0952-31-0753
【さんこう児童クラブ携帯】
TEL:090-7430-1312

秋の到来

暑い夏がようやく過ぎ、朝夕は涼しくなりました。児童クラブでも宿題を終えた後、外遊びができるようになり、子どもたちも喜んでいきます。10月24日は神野小学校の運動会が開催されるそうで、「先生、見に来てくれる？」等々、勧誘があっているようです（＾＾）

さて、9月5日に行われた、さんこうフェスには、たくさんの卒園児さんが参加してくれました。色々な小学校に分かれた級友たちと久しぶりに再会して、親子で楽しく歓談される姿を見てとても嬉しい時間を過ごすことができました。高校生になった子が、「僕、西九州大学にいて、幼稚園の先生なるよ！」と、今の思いを聞かせてくれたときは、幸せな気分になりました。たくさん、一緒に笑って過ごした日々が彼の記憶に残っていたのかもしれないね。

キャンパスの樹木や、多布施川の風景も秋色になってきました。下校後、児童クラブで過ごす時間が楽しくなるよう計画しています。

10月の目標「自分の思いは言葉で伝えよう」

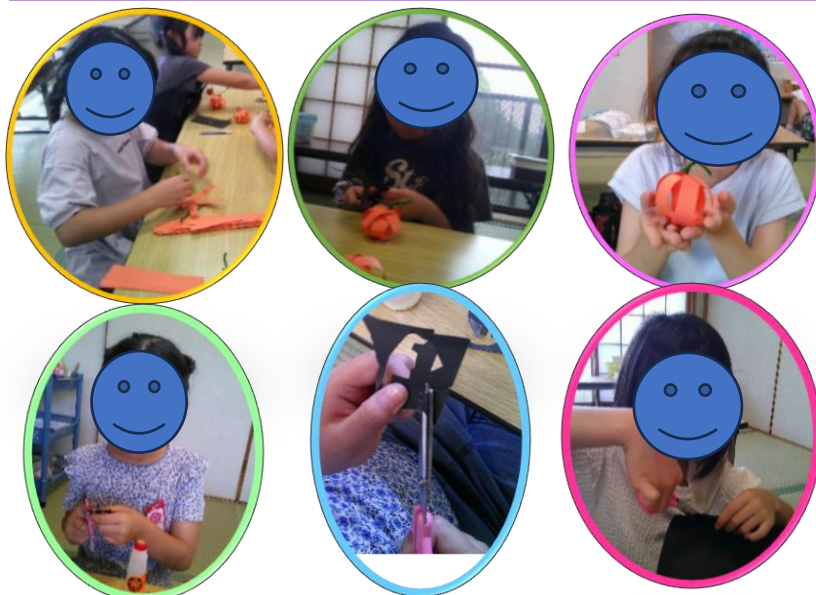
嫌なことがあった時、友達に思いが伝わらない時、つい手を出してしまうことがあります。そのような時、お互いにやり返し、喧嘩に繋がるケースが見られます。児童とは既に、言葉で伝えること、嫌だと伝えても続く時には、すぐに先生に相談することを話しました。身体で表現した結果、相手を怪我させてしまう可能性があり、その子の気持ちも置き去りになってしまいます。伝え方、相手の気持ち、色々な方面から具体的に考え、自分の気持ちも他人の気持ちの大切にできるよう育てていけたらと思っています。

10月の学童児童数

	在籍者数	休所者数	利用者数	そのうち新規入所者数
1年生	16	0	16	0
2年生	11	0	11	0
3年生	2	0	2	0
計	29	0	29	0

【★少しずつハロウィンへ★】

スーパーマーケットでは、既にハロウィンのお菓子や飾りが置いてあり、早くもハロウィン気分を味わえます。まだまだ暑い日は続いています。朝、夕と少しずつ過ごしやすいく気候になってきたことで秋を感じる場面もあります。クラブでも環境、雰囲気、秋に近づけ、早速ハロウィンのカボチャ作りをしました（*^*）

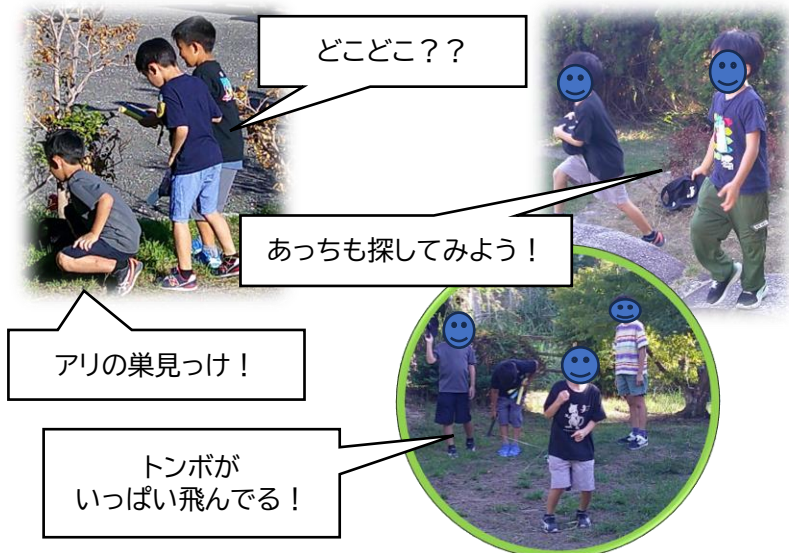


細かくハサミを動かし、小さな顔のパーツを切っていました♡パーツはオリジナルなので、それぞれに個性が表れ、児童も自分の作品に満足げな様子が見られました☆作ったカボチャを幾つも繋げる工夫も面白く、発想に関心です♪友達のアイディアを参考にしている子もいて、互いに影響し合った製作の時間となりました（*▽*）



【虫探しに夢中♪】

熱中症指数に気を付け、戸外に行けそうな気候の日には中庭で遊べるようになってきて、大喜びの子どもたち★特に盛り上がっているのは虫探しです！トンボがたくさん飛んでいたり、テントウムシやダンゴムシ、バッタ等様々な虫がいてあちらこちらに動き回って見つけています。セミの抜け殻を大事に持って帰る子もいてたくさんの虫に触れ合えることが好奇心をさらにかき立てています★



子育て便り

「外での運動遊びが育む、子どもの心・社会性・生活リズム」

スポーツ健康福祉学科 教授 山田力也

子どもが外で遊ぶ「時間」「空間」「仲間」が減っているといわれます。それでも、体を動かす楽しさは身近な場所にあります。水たまりを跳び越える、公園の坂を駆け上がる、友達と追いかけっこをする。自然の中で体を動かす遊びは、体力だけでなく、心や人と関わる力、生活リズムにもつながっています。

例えば、でこぼこ道を歩く、少し急な坂を登る、石を踏まないように跳んで進む。子どもは体を動かしながら「どうすれば渡れるかな」「次はここに足を置こう」と考え、小さな「できた」を重ねます。うまくいなくても、やり方を変えてもう一度試す。その繰り返しで、自分を信じる気持ちや新しいことに挑戦する意欲を育みます。文部科学省の調査でも、子どもの頃の自然体験の豊かさと、その後の自尊感情との関連が報告されています。

友達と一緒に体を動かすときには、別の学びも生まれます。追いかけっこで「ここから先は安全地帯にしよう」と相談する。ボールを転がす遊びで「次は誰の番？」と声をかける。思いがすれ違ったときには、相手の話を聞いて遊び方を考え直すこともあります。転んだ友達を気遣ったり、一緒にゴールした友達と喜び合ったりする経験も、コミュニケーション力や思いやりを育む機会になります。文部科学省の「幼児期運動指針」も、体を動かす遊びと意欲や社会性とのつながりを示しています。

外で元気に遊ぶことは、眠りを支える生活リズムにも関わります。朝や日中に自然光を浴びることは、体内時計を整える助けになります。昼間は歩いたり走ったりして遊び、夜は部屋の明かりを落として休む。そんな一日のメリハリをつくることも、子どもの健やかな成長を支えます。

子どもにもっと体を動かしてほしいとき、「外で遊んでおいで」と声をかけるだけでなく、身近な大人自身の姿も一つのきっかけになります。笹川スポーツ財団の調査では、幼児が園以外で体を動かす時間は、親の運動習慣や親子で一緒に体を動かす頻度と関連していました。散歩を楽しむ、階段を使う、ときには公園で一緒に走ってみる。親が楽しそうに体を動かす姿から、子どもも「やってみたい」と感じるかもしれません。まずは大人も、無理なく体を動かすことを楽しんでみませんか。

【参考文献】

- ・文部科学省（2020）：青少年の体験活動の推進に関する調査研究 報告書
- ・文部科学省（2012）：幼児期運動指針
- ・厚生労働省（2023）：健康づくりのための睡眠ガイド
- ・笹川スポーツ財団（2024）：幼児の運動習慣、“公園の多さ”より“親子のふれあい”“親のつながり”がカギ